



北海道札幌大通
三井物語
内閣文庫
北海道
八日
北

十二月

一



勝本鼎一

大阪市西區南堀江通壹丁目

わが、小の手に手

馬は、われよ手少

きふ、浮乞にゆう

車了夜鹿ぬ。了

在御付ト是食不

一三國す。よ。す信一

豊翁し此多ト人

せり又の再起を希望

翁は、何事かと尋ね

は居れ。一沙よ。まよ。

人物考略。おらやくの用

はあせり一のよきま

人の事務からやうの間

くらふとまづうれしくも

今なまこ守る芳こう

いわゆるすこされば一萬

万年をうつむかへ也政が

姓みのあひ井川内侍

さすあひ井川内侍

雲娘とおほき

上り手の花うそよ

わ原のりかわうら

じとうまくひるりぬ

ねえも」詩集あわゆ

花冠をくくらんす

きくらんす

とくにあらう。ひるりとく。

傍人より待まつてゐ

花の匂いをうなづか

きくよれようはゆこ

いたむつ此處小町

あがむやうにしる

みまはせにむき一丁

おもむりて

えりおき

入室

ナムル

内門

公田家上様

時下